

【試合結果】

男子 決勝トーナメント		準決勝															
日時	平成30年3月25日 (日)		13:00 ~														
会場	函館アリーナ																
結果	○		●														
	帯広地区選抜 1年生	<table border="0"> <tr><td>16</td><td>—</td><td>9</td></tr> <tr><td>17</td><td>—</td><td>9</td></tr> <tr><td>15</td><td>—</td><td>8</td></tr> <tr><td>10</td><td>—</td><td>16</td></tr> <tr><td></td><td>OT</td><td></td></tr> </table>	16	—	9	17	—	9	15	—	8	10	—	16		OT	
16	—	9															
17	—	9															
15	—	8															
10	—	16															
	OT																
審判	主審 加藤 琢也		副審 佐々木 大樹														

第36回北海道ジュニアオールスターバスケットボール大会



【ボックススコア】

帯広地区選抜		1年生						
No.	選手氏名	出場	得点	3P	2P	FT	R	F
4	山田 哲汰	DNP	10		5		6	5
5	浅野 陽当	DNP	11	2	2	1	2	2
6	脇坂 元聖	DNP	8	1	2	1		
7	赤間 蒼史	DNP						
8	高田 竜希	DNP	6		3			1
9	渡邊 悠人	DNP	2		1			2
10	斉藤 大瑚	DNP	3	1			1	4
11	上野 希創	DNP	2		1		4	2
12	山田 龍輝	DNP	6	1	1	1	3	2
13	梅崎 隼	DNP	1			1	3	
14	深谷 颯太郎	DNP	3		1	1	6	
15	大井 惇輝	DNP						1
16	大坪 諒佑	DNP					1	
17	齊藤 颯大	DNP	6		2	2	6	
18	山 拓海	DNP						
HC	坂田 明彦							
合計			58	5	18	7	32	19

北見地区選抜		1年生						
No.	選手氏名	出場	得点	3P	2P	FT	R	F
4	土門 頼生	DNP					3	
5	玉置 茶久	DNP	11		5	1	11	
6	逸見 俊平	DNP						2
7	皆上 晃汰	DNP	9		4	1	3	3
8	宮村 悠大	DNP	4		2			1
9	水島 直哉	DNP	6		3		5	4
10	東山 愁	DNP	2		1		1	2
11	今野 海斗	DNP	2		1			1
12	末永 桜太	DNP	6	1	1	1	1	1
13	末永 桜輝	DNP					3	1
14	片平 秀斗	DNP					3	
15	伊藤 大空	DNP					1	
16	平泉 寛大	DNP						
17	鈴木 大誠	DNP	2		1		1	1
18	長谷川 海里	DNP						1
HC	三鍋 健太							
合計			42	1	18	3	32	17

出場 ×:スターター /:途中出場 DNP:出場なし
 得点 3P:3ポイントシュート 2P:2ポイントシュート FT:フリースロー

【戦評】

1ピリオド、帯広4、5、11、12、17、北見8、11、12、13、17のスタートメンバー。両チームハーフコートディフェンスでスタート。北見4のレイアップでオープニング。5のスリーポイント、17のレイアップの連続得点で7-0となったところで、北見たまたま1回目のタイムアウト。その後は、北見も8の速攻やジャンプシュートなどで得点し、帯広の激しいプレッシャーディフェンスからの速攻というゲームの流れを少し戻して、16対9の帯広7点リードで1ピリオド終了。

2ピリオド、帯広7、8、9、10、14、北見4、5、7、9、10のスタートメンバー。北見は、堅いディフェンスで簡単に得点を許さず、攻めては5のハイポストからの連続ジャンプシュート、7のドライブなどで加点。帯広も8や9のジャンプシュートやフリースロー、速攻などで応酬。帯広10が3Pを決め、25対16となったところで北見2回目のタイムアウト。タイムアウト明けも6の3Pや連続ブレイク等で加点する帯広。33対18の帯広15点リードで前半終了。

3ピリオド、帯広4、5、11、12、17、北見5、7、9、12、13のスタートメンバー。帯広5のドライブからのシュートが最初の点数。その後も11のブレイクなどで着実に加点。残り6分27秒で38対18となったところで北見後半1回目のタイムアウト。北見も9や12のカッティング、ブレイク、10のジャンプシュートなどで反撃。帯広も4のブレイク、17のリバウンドショットなどで応酬。48対26の帯広リードで3ピリオド終了。

4ピリオド、帯広5、8、12、13、14、北見5、7、11、12、13のスタートメンバー。北見は、スリークォーターからボールプレスディフェンスやハイピックオフenseからの合わせで打開を図りたいが、帯広の落ち着いたプレーでゲームの流れは変わらない。52対32となったところで北見2回目のタイムアウト。その後も両チーム気迫あふれるもプレーを見せるも結局、58対42の帯広勝利でゲーム終了。北見の最後で諦めない粘り強いプレー、帯広の強いディフェンスからの卓越した個人技など白熱した3位決定戦となった。両者の健闘に拍手を送りたい。